

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

1. 名称（他のプログラムと容易に区別できること）
三重民医連後期研修家庭医プログラム

2. プログラム責任者			
氏名	宮崎 智徳	指導医認定番号	2009-008
所属・役職	津生協病院・院長		
所在地・連絡先	住所 〒514-0801 三重県津市船頭町 1721 津生協病院 電話 059-225-2848 FAX 059-225-2922 E-mail miyazaki@tsucoop.jp		
連絡担当者氏名*・役職	蒲 信一・事務長		
連絡先*	電話 059-225-2848 FAX 059-225-2922 E-mail zimutyo@za.ztv.ne.jp		

* プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合にのみ記載

3. 後期研修医定員
1年あたり（ 2 ）名 （×研修期間年数＝総定員 6 名）
※総合診療専門研修ⅠおよびⅡにおいて、日本プライマリ・ケア連合学会専門医・認定医認定制度要綱 28 条に定める常勤指導医を、その部署で同時に研修する後期研修医 3 名に対して 1 名以上配置できる人数に留めること。例えば、総合診療専門研修Ⅰが 9 カ月の場合、3 名ずつが 9 カ月毎にローテートするならば、3 年＝36 カ月のプログラムで 1 年あたり最大 4 名（ $36 \div 9 = 4$ ）まで受け入れ可能となる。

4. プログラムの期間
（ 3 ）年間

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

5. 概要
<p>A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長</p> <p>地域の小規模病院としての利点である、地域の患者との密接な関係、一人ひとりのスタッフの顔が見えるチーム医療の展開により、頻度の高い症例に学びながら総合的な力量、プライマリーケアの基礎的な力量を身につけるのに有利な条件を備えています。基幹型臨床研修病院として、協力型研修病院や研修協力施設と連携し研修プログラムの実践を行います。</p> <p>①病院群プログラムとして保健・医療・福祉を総合した研修を行う。 ②外来や診療所にて総合的な力量を養う。 ③地域医療の実態の理解のために、往診に従事し在宅医療を行う。 ④研修の評価を大切に、研修医一人ひとりの成長をサポートする。 ⑤患者の権利を守る立場を貫き、他職種と協力して患者中心の医療を行う。</p>
<p>B. プログラムの理念、全体的な研修目標</p> <p>(1) 人権を守る総合的な診察能力の獲得 患者を全人的（身体的・心理的・社会的）にとらえ、一人ひとりの問題解決を指向する姿勢を身につける。インフォームドコンセントを含めた医療におけるコミュニケーションを重視し、医療の目標を患者・家族と共有しあえる信頼関係が構築できるようにする。</p> <p>(2) 患者の立場に立つ医療チームのリーダーとしての力量をつける 患者の立場に立ち、保険・医療・福祉の幅広い職種と対等平等の関係でチームを構成し、その中で医療としての役割を自覚し、各職種の役割や尿力を引き出せるリーダーシップを身につける。</p> <p>(3) 医療の社会性を学び、医師としての社会的役割を理解する 患者や疾病の背景にある生活・地域・職場環境に目を向け、疾病を社会的にとらえて解決していくために、保健・医療・福祉制度への理解を深め、患者にとって制度を活用・拡充していく視点を身につける。</p>
<p>C. 各ローテーション先で学べる内容や特色</p> <p>津生協病院を拠点として、大学病院、国立病院機構などの協力を得て、三重県内においての家庭医療、内科、小児科（小児保健）の比較的深い知識と技術の獲得を強調したローテーションスケジュールを組織する。またローテート研修中も科の枠を超えた、往診・外来・救急・研修会・学習会の時間をつくり、総合的な能力の養成を目指す。</p> <p>総合診療専門研修Ⅰでは、外来・在宅を中心に総合診療の基礎を学び、幅広く患者総に対応することで総合診療の専門性を身につけることを主とする。総合診療専門研修Ⅱは、病棟での研修を中心とし、また、地域の専門各科の診療所と連携しながら総合診療の幅広い見識を習得する診療所研修を組み込んでいる。</p>
<p>D. 指導体制に関する特長</p> <p>1ヶ月に1回、指導医、看護師、研修担当事務で構成する研修検討委員会で研修を振り返り、研修医の研修到達の確認を行う。研修修了認定は、学会が示す専門医取得基準に準拠するポートフォリオの作成及び、研修検討委員会、病院管理会議において、総合的に判断する。</p> <p>当プログラムで研修を受けた研修医からプログラムに対する評価をもらい、改善すべき点があればすみやかに対応し、次年度に活かす。</p>
<p>E. 医療関係職種、保健・福祉関係職種、地域の住民、医療機関の利用者などの協力を得る方法</p> <p>定例で行われる多職種との症例検討会でのプレゼンテーションや、地域住民が参加する健康講座などに参加する中で、医療関係職種、保健・福祉関係職種、地域の住民、医療機関の利用者からのフィードバックをしていただき、今後にかしていくことが可能となる。</p>

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

F. その他

拠点となる津生協病院では生活協同組合という仕組みの中で、地域の方との密接なつながりが、日常の診療以外にも学習会などで提供される機会が多いのが特徴です。参加する研修医はそこで学習会の行使を担当する中で、①態度に関して、②話し方に関して、③説明力について、④応対についてなどにおいて、数項目の分野において評価をされフィードバックされます。また、この学習会には指導医も参加し、同じようにフィードバックします。地域の方々の目線と研修医との視点の両方で患者対応、プレゼンテーション能力を身につけられる機会があるのも特徴です。

G. モデルとなるローテーション例

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	その他	その他	その他
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	内科	内科	内科	内科	内科	内科	救急	救急	救急	小児科	小児科	小児科
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ

総合診療専門研修ⅠとⅡは合計18か月以上となる。総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ、その他の期間については調整可能。
 ※「総診Ⅰ」、「総診Ⅱ」、「内科」、「小児科」、「救急」、「その他」という表記で記入してください。

H. プログラムの全体構成（月単位の換算による）

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (6) か月以上		総合診療専門研修Ⅱ (6) か月以上	
領域別 研修	内科 (6) か月	小児科 (3) か月	救急科 (3) か月	その他 (3) か月以上

※救急科が兼任研修の場合の記載法：例えば内科8か月、小児科4か月の間週1回救急科研修したら、内科6か月、小児科3か月、救急科3か月というふうに、本来の研修先の研修期間（この場合内科+小児科の12か月）のうち救急科研修の期間をプログラムに必要な長さにとり、本来の研修先の研修期間（内科8か月と小児科4か月）は救急科研修の期間を減じた形（内科は8→6か月、小児科は4→3か月）で記載して下さい。

6-1. 総合診療専門研修Ⅰ

研修施設名 1	津生協病院	診療科名 (内科)
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数 (149) 床 診療科病床数 (136) 床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	(6) か月以上	
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
※同一施設で3か月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。		
指導医氏名 1	宮崎 智徳	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 (2009-008)
指導医氏名 2	宮田 智仁	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 (2013-669)
指導医氏名 3	小西 一豊	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 (2014-0735)

※常勤指導医を確保できない場合、指導医の特例についての申請書が必要（審査有）

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

要件（各項目の全てを満たすとき、を塗りつぶす（のように））

ケアの内容

- 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど
- 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事
- 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加

施設要件

患者層：研修医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。

■上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。（※小児科を有する病院で実施するプログラムは基本的に記載要）
具体的な補完方法（学童期以下：施設全体の中では5%未満であるが、週1回小児科外来研修を組み込んでおり、後期研修医経験症例として研修補完（経験例は5%以上）している。）

■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。
具体的な体制と方略（24時間体制で直直体制を敷いており、1次から2次まで来院～応急・救急患者対応を行っている。地域の2次救急輪番体制と連携している。在宅患者は、24時間携帯電話にて在宅主治医・担当医と相談・日当直医と連携体制をとっている。）

■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。
具体的な体制と方略（外来患者・訪問診療の患者とも基本的に主治医制をとり、定期受診は予約を入れることで継続的に関わり、訪問患者では主治医意見書や多職種とのやり取り・連携は担当医が主体となって、担当看護師とともに継続的に関わる体制をとっている。）

■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。
具体的な体制と方略（0歳から105歳までの多様な年齢層に対して、急性期・慢性期の外来診療と予防医学的アプローチ・訪問診療を含めた緩和ケア・看取りを提供できる患者層と診療体制をとっている。）

■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。
具体的な体制と方略（第3次医療機関との紹介・逆紹介はスムーズに行われ、必要時には電話での相談を行える関係性がある。ケアマネとの関係性については、院内所属者に関しては日常的に連携・相談を行い、他事業所担当者とは書面でのやり取りも含め相談・連携をとっている。地域の介護・福祉機関とは、地域ケア会議での情報交換や日常的に問題発生時に症例毎の相談を行える体制がある。年数回であるが、医療・介護地域連携学習会の開催を行っている。）

■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。
具体的な状況（同一家族が受診した際に家族のつながりが分かるように家族図が配備・記載され、様々な構成員が家族単位でのかかりつけ医療機関として利用できる体制がある。）

■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。
具体的な内容与方法（医療福祉生活協同組合という組織の特性も生かし、受診していない地域住民・組合員への集団的アプローチを考える機会を持たせている。1次予防・2次予防を含めた健康講座を開催し、その講師として参加・企画立案に関わりを持つ体制をとっている。）

■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。
それぞれの概ねの頻度（約50件の訪問診療患者を抱え、月2回の定期訪問診療を継続的に行うだけでなく、強化型在宅支援病院として臨時往診も時間内・外も含めて対応している。在宅緩和ケアも行い、患者・家族が希望する際には在宅看取りが円滑に行える連携体制をケアマネ・在宅担当看護師・訪問看護師などの関係者と構築している。
・訪問診療：管理50例、臨時対応：年数回（10）、看取り・緩和ケア：年数例（5）

週当たり研修日数：（ 5 ）日

総合診療専門研修Ⅰの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数

内容	小児科
日数	1日/週（1単位）

6-1. 総合診療専門研修Ⅰ

研修施設名 2	高茶屋診療所	診療科名（ 総合診療科 ）
施設情報	■診療所 <input type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）カ月以上	
研修期間の分割	■なし <input type="checkbox"/> あり	
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。		
指導医氏名 1	宮崎 景	■常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 (2012-157)
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 ()
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 ()
※常勤指導医を確保できない場合、指導医の特例についての申請書が必要（審査有）		

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

要件（各項目の全てを満たすとき、を塗りつぶす（■のように））

ケアの内容

- 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど
- 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事
- 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加

施設要件

- 患者層：研修医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。
- 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。（※小児科を有する病院で実施するプログラムは基本的に記載要）
具体的な補完方法（ ）
- アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。
具体的な体制と方略（地域の2次救急輪番体制と連携している。在宅患者は、センター病院である津生協病院と連携し、在宅主治医・担当医と相談・日当直医と連携体制をとっている。）
- 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。
具体的な体制と方略（外来患者・訪問診療の患者とも基本的に主治医制を取り、定期受診は予約を入れることで継続的に関わり、訪問患者では主治医意見書や多職種とのやり取り・連携は担当医が主体となって、担当看護師とともに継続的に関わる体制をとっている。）
- 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。
具体的な体制と方略（乳幼児期から高齢期までの多様な年齢層に対して、急性期・慢性期の外来診療と予防医学的アプローチ・訪問診療を含めた緩和ケア・看取りを提供できる患者層と診療体制をとっている。）
- 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。
具体的な体制と方略（近隣医療機関との紹介・逆紹介がスムーズに行われ、必要時には電話での相談を行える関係性がある。ケアマネとの関係性は、内部スタッフに関しては日常的に連携・相談を行い、他事業所担当者とは書面でのやり取りも含め相談・連携をとっている。地域の介護・福祉機関とは、日常的に情報交換や問題発生時の症例毎の相談を行える体制がある。センター病院の津生協病院が主体となり、医療・介護地域連携学習会を年数回開催している。）
- 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。
具体的な状況（同一家族が受診した際に家族のつながりが分かるように家族図が配備・記載され、様々な構成員が家族単位でのかかりつけ医療機関として利用できる体制がある。）
- 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。
具体的な内容と方法（医療福祉生活協同組合という組織の特性も生かし、受診していない地域住民・組合員への集団的アプローチを考える機会を持たせている。1次予防・2次予防を含めた健康講座を開催し、その講師として参加・企画立案に関わりを持つ体制をとっている。）
- 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。
それぞれの概ねの頻度（約17件の訪問診療患者を抱え、月1~2回（のべ月20数件）の定期訪問診療を継続的に行うだけでなく、臨時往診も対応している。在宅緩和ケアも行い、患者・家族が希望する際には在宅看取りが円滑に行える連携体制をケアマネ・在宅担当看護師・訪問看護師などの関係者と構築している。
・訪問診療：管理17例、臨時対応：年数回（3）、看取り・緩和ケア：年数例（1件）

週当たり研修日数：（ 5 ）日

総合診療専門研修Ⅰの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数

内容	
日数	日/週

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ

研修施設名1	津生協病院	診療科名（ 内科 ）
施設情報	病院病床数（ 149 ）床	診療科病床数（ 136 ）床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（ 6 ）カ月以上	
研修期間の分割	■なし <input type="checkbox"/> あり（分割について具体的に記入してください）	
指導医氏名1	宮崎 智徳	■常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
指導医氏名2	宮田 智仁	■常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
指導医氏名3	山村 剛史	■常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
指導医認定番号	（ 2009-008 ）	
指導医認定番号	（ 2013-669 ）	
指導医認定番号	（ 2014-0724 ）	
※常勤指導医を確保できない場合、指導医の特例についての申請書が必要（審査有）		

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

要件（各項目の全てを満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））

ケアの内容

- 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。
- 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。

施設要件

- 一般病床を有する
- 救急医療を提供している

病棟診療：以下の全てを行っていること

- 高齢者（特に虚弱）ケア
具体的な体制と方略（当院の入院患者の約8割、外来患者の約7割は高齢者であり、介護を要する虚弱高齢者が多く、一般急性期50床・障害者病棟53床・医療療養型46床の構成となっており高齢者の急性期からリハビリ・療養期までの継続したケアの対応・実際を主治医として経験・マネジメントできる。）
 - 複数の健康問題を抱える患者への対応
具体的な体制と方略（高齢者や難病・障害者の患者など、複数の問題を抱える患者に対して、当科が主治医機能を担いながら早期から多職種カンファレンスを開催し、各診療科とも連携し対応にあっている。）
 - 必要に応じた専門医との連携
具体的な体制と方略（整形外科疾患や外科疾患について院内の各専門医、皮膚科・眼科・耳鼻咽喉科疾患などについては近隣専門の病院・医院と連携して相談しながら対応している。）
 - 心理・社会・倫理的複雑事例への対応
具体的な体制と方略（複雑な事例について、毎月一回程度、多職種（各科の医師、看護師、事務、セラピスト、ソーシャルワーカー、など）で困難事例・気になる事例検討会を開催し検討を行っている。）
 - 癌・非癌患者の緩和ケア
具体的な体制と方略（院内で緩和ケアに関する多職種で構成された緩和ケアチームが週に1回緩和ケア回診を行っており、また症例検討会を兼ねた勉強会を2～3か月に1回開催し常に質の向上に努めている。）
 - 退院支援と地域連携機能の提供
具体的な体制と方略（院内に地域連携室を設置しており、入院早期から相談係が患者さんや家族と面談を行い、退院支援を行っている。自前や近隣の訪問看護ステーションや在宅介護支援センター・介護関連施設と連携しており、退院時には関係者とのカンファレンスを行い情報の共有を図っている。年数回であるが、近隣の多施設に呼びかけ地域連携学習会を開催している。）
 - 在宅患者の入院時対応
具体的な体制（年間で30例程度の在宅患者が、発熱や腹痛・頭痛・食思不振などの精査や加療目的で入院し、急性期対応・診断・治療や在宅サービス提供の再調整・マネジメントなど行っている。）
- 外来診療**：以下の診療全てを行っていること
- 救急外来及び初診外来
具体的な体制と方略（救急外来は一般外来の診療時間以外のすべての時間帯に、内科（一般）の新患・初診外来は平日の午前2診体制および平日週3日の夕方16～20時2診体制で診療している。地域医師会内の救急輪番制に参画しており、毎週土曜の18時から翌日曜日の9時まで1次から2次救急対応を行っている。）
 - 臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者
具体的な体制と方略（内科（一般）外来の初診と再来（禁煙外来を除く）は、臓器別でない診療をしており、臓器別の紹介状を持たない患者を毎月約400名診療している）
 - よくある症候と疾患
具体的な体制と方略（内科（一般）の外来患者のおよそ8割程度が頻度の高い症候や疾患の患者である。）
 - 臨床推論・EBM
具体的な体制と方略（外来患者に関する症例検討会を毎週1回行い、臨床推論やEBMの観点からも検討している。）
 - 複数の健康問題への包括的なケア
具体的な体制と方略（複数の健康問題のある患者に対して、院内の専門各科や院外専門家・セラピスト等と連携し包括的なケアを提供している。）
 - 診断困難患者への対応
具体的な体制と方略（不明熱や体重減少など診断が困難な患者の精査を、外来や病棟で月に15例程度診療している。）

週当たり研修日数：（ 5 ）日

総合診療専門研修Ⅱの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数

内容	診療所（総合診療科、皮膚科、耳鼻咽喉科など順次）
日数	1日/週

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ			
研修施設名 2		診療科名 ()	
施設情報	病院病床数 () 床	診療科病床数 () 床	
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間		() カ月	
研修期間の分割	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (分割について具体的に記入してください)		
指導医氏名 1	<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	()
指導医氏名 2	<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	()
指導医氏名 3	<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	()
※常勤指導医を確保できない場合、指導医の特例についての申請書が必要 (審査有)			
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように))			
ケアの内容			
<input type="checkbox"/> 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。			
<input type="checkbox"/> 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。			
施設要件			
<input type="checkbox"/> 一般病床を有する			
<input type="checkbox"/> 救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
<input type="checkbox"/> 高齢者(特に虚弱)ケア 具体的な体制と方略 ()			
<input type="checkbox"/> 複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 ()			
<input type="checkbox"/> 必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 ()			
<input type="checkbox"/> 心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 ()			
<input type="checkbox"/> 癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 ()			
<input type="checkbox"/> 退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略 ()			
<input type="checkbox"/> 在宅患者の入院時対応 具体的な体制 ()			
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること			
<input type="checkbox"/> 救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略 ()			
<input type="checkbox"/> 臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略 ()			
<input type="checkbox"/> よくある症候と疾患 具体的な体制と方略 ()			
<input type="checkbox"/> 臨床推論・EBM 具体的な体制と方略 ()			
<input type="checkbox"/> 複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略 ()			
<input type="checkbox"/> 診断困難患者への対応 具体的な体制と方略 ()			
週当たり研修日数：() 日			
総合診療専門研修Ⅱの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数			
内容			
日数	日/週		

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

6-3. 領域別研修：内科			
研修施設名 1	三重大学医学部附属病院	病院病床数 (685) 床	診療科名 (内科)
領域別研修 (内科) における研修期間		(6) カ月	
指導医氏名 1	伊藤正明	臨床経験年数 (34) 年	
有する認定医・専門医資格	内科認定医、循環器専門医、高血圧専門医		
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
ケアの内容			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。			
施設要件			
■医師法第 16 条の 2 および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。			
■内科病床数が 50 床以上ある。(167) 床			
■内科常勤医が 5 名以上いる。(98) 名			
■後期研修プログラムの認定に関する細則第 9 条(5)に定める指導医が病院全体として 3 名以上いる。(47) 名			
週当たり研修日数：(5) 日			
領域別研修 (内科) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数			
内容			
日数	日/週		

研修施設名 2	三重中央医療センター	病院病床数 (486) 床	診療科名 (内科)
領域別研修 (内科) における研修期間		(6) カ月	
指導医氏名 1	田中淳子	臨床経験年数 (23) 年	
有する認定医・専門医資格	総合内科専門医、循環器専門医		
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
ケアの内容			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。			
施設要件			
■医師法第 16 条の 2 および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。			
■内科病床数が 50 床以上ある。(200) 床			
■内科常勤医が 5 名以上いる。(21) 名			
■後期研修プログラムの認定に関する細則第 9 条(5)に定める指導医が病院全体として 3 名以上いる。(14) 名			
週当たり研修日数：(5) 日			
領域別研修 (内科) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数			
内容			
日数	日/週		

※研修施設が 2 箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

6-4. 領域別研修：小児科			
研修施設名 1	国立病院機構三重病院	病院病床数 (260) 床	診療科名 (小児科)
領域別研修 (小児科) における研修期間		(3) カ月	
指導医氏名 1	菅 秀	有する専門医資格 (日本小児科学会専門医)	
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
ケアの内容			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する。			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する。			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。			
施設要件			
■小児領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる。			
■小児科常勤医がいる。 (14) 名			
週当たり研修日数：(5) 日			
領域別研修 (小児科) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数			
内容			
日数	日/週		

研修施設名 2		病院病床数 () 床	診療科名 ()
領域別研修 (小児科) における研修期間		() カ月	
指導医氏名 1		有する専門医資格 ()	
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
ケアの内容			
□外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する。			
□救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する。			
□病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。			
施設要件			
□小児領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる。			
□小児科常勤医がいる。 () 名			
週当たり研修日数：() 日			
領域別研修 (小児科) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数			
内容			
日数	日/週		

※研修施設が 2 箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

6-5. 領域別研修：救急科			
研修施設名 1	三重大学附属病院	病院病床数 (685) 床	年間救急搬送件数 (700) 件
指導医氏名 1	今井 寛	有する専門医資格 (日本救急医学会指導医、日本集中治療学会専門医)	専従する部署 (救急科)
ブロック研修、兼任研修のいずれかを選択し、□を塗りつぶす (■のように)			
<input checked="" type="checkbox"/> ブロック研修 → 領域別研修 (救急科) における研修期間 (3) カ月 <input type="checkbox"/> 兼任研修 → どの研修と組み合わせるか () 週あたり研修日数 () 日、研修期間 () カ月 ※兼任研修の場合、「5. 概要」の「H. プログラムの全体構成」の記載との整合性を保つこと			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
ケアの内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
<input checked="" type="checkbox"/> 救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設 <input type="checkbox"/> 救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関 (救急搬送件数が年に 1000 件以上)			
週あたり研修日数：(5) 日			
領域別研修 (救急科) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数			
内容			
日数	日/週		

研修施設名 2		病院病床数 () 床	年間救急搬送件数 () 件
指導医氏名 1		有する専門医資格 ()	専従する部署 ()
ブロック研修、兼任研修のいずれかを選択し、□を塗りつぶす (■のように)			
<input type="checkbox"/> ブロック研修 → 領域別研修 (救急科) における研修期間 () カ月 <input type="checkbox"/> 兼任研修 → どの研修と組み合わせるか () 週あたり研修日数 () 日、研修期間 () カ月 ※兼任研修の場合、「5. 概要」の「H. プログラムの全体構成」の記載との整合性を保つこと			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
ケアの内容			
□救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
<input type="checkbox"/> 救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設 <input type="checkbox"/> 救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関 (救急搬送件数が年に 1000 件以上)			
週あたり研修日数：() 日			
領域別研修 (救急科) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数			
内容			
日数	日/週		

※研修施設が 2 箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

6-6. 領域別研修：その他						
研修領域	必修・ 選択別	ブロック・ 兼任の別	研修日数/週 (兼任の場合)	研修期間	研修施設名と 診療科名	指導医氏名
一般外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(5) 日/週	(3) カ月	津生協病院附属診療所	田中久雄、小坂聡哉
整形外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(5) 日/週	(2) カ月	津生協病院附属診療所	安田知重
精神科/ 心療内科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
産科婦人科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
皮膚科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(5) 日/週	(2) カ月	うめだ皮膚科クリニック	梅田由美
泌尿器科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
眼科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(5) 日/週	(2) カ月	ゆたクリニック	湯田厚司
放射線科 (診断・撮影)	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
臨床検査・ 生理検査	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
リハビリ テーション	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
その他 (救急医学)	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(5) 日/週	(2) カ月	津生協病院	加藤晶俊
その他 (総合診療科)	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(5) 日/週	(3) カ月	白塚診療所	宮田智仁

7. 後期研修医の評価方法（研修修了認定の方法も含めて、評価計画等具体的に）
<ul style="list-style-type: none"> ● 1ヶ月に1回、指導医、看護師、研修担当事務で構成する研修検討委員会で研修を振り返り、研修医の研修到達の確認を行う。 ● 研修修了認定は、学会が示す専門医取得基準に準拠するポートフォリオの作成及び、研修検討委員会、病院管理会議において総合的に判断する。

8. プログラムの質の向上・維持の方法
<ul style="list-style-type: none"> ● 当プログラムで研修を受けた研修医から、プログラムに対する評価をもらい、改善すべき点があれば、すみやかに対応し、次年度に活かす。 ● 学会、学習会などで最新の情報をつかみ、プログラムの向上に努める。 ● 三重県内や関係する団体内でプログラムを設けている研修施設と交流を深める。